

「造血細胞移植治療の全国調査」に同意いただいた患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	AYA 世代 AML と成人 AML における移植成績の経時的比較
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	血液内科
研究責任者	(職名) 講師 (氏名) 水野昌平
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	思春期・若年成人 (AYA) 世代に生じる白血病は、小児白血病とも成人白血病とも異なった臨床像を有し、このことは急性リンパ性白血病 (ALL) を対象とした研究によって明らかにされてきました。急性骨髄性白血病 (AML) でも同様のことがいえると推察されますが、ALL に比べて症例数が限られることもあり十分に解明されていないのが現状です。この疾患群の同種造血細胞移植の成績と予後因子を後方視的に解析することで、これらに対する同種造血細胞移植の有効性を検証できます。造血細胞移植学会は「造血細胞移植治療の全国調査」として造血細胞移植治療を行った患者情報を収集しており、移植症例登録一元管理プログラム (TRUMP) として管理しています。今回、この「造血細胞移植治療の全国調査」の一環として、「AYA 世代 AML と成人 AML における移植成績の経時的比較」の解析を行います。
対象となる患者さん	急性骨髄性白血病のため初回同種造血細胞移植を行った患者さん(2000～2017年に移植が行われ、「造血細胞移植治療の全国調査」に同意いただき、TRUMP データに登録されている方)
研究の方法	同種移植の全生存率、非再発生存率、再発率、非再発死亡率を、Ph 陽性 AML と Ph 陰性 AML で比較します。生命予後に寄与する因子 (年齢、性別、PS、HCT-CI、移植前の病期、診断から移植までの期間、移植実施年、移植細胞数など) と生存との関連を解析します。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2024 年 6 月 30 日
研究に用いる試料・情報	情報: 初回同種造血細胞移植を行った急性骨髄性白血病患者の治療、治療効果、生存期間など患者情報
外部への試料・情報	なし

の提供	
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	当院に提供される移植患者データは個人識別不能であるため、情報利用の提供を希望されない場合でも受付できません
その他	
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部 血液内科 担当者：(職名) 講師 (氏名) 水野昌平 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 23540)